河の上の菊花作

上

へ刺13
929

この孔子の義教

門へ利13
弟929
巻

早稲田大学図書館

いとゝ知るべきこゝ四人のうくの様ゝ
ることをいとゝやびたるふうゝかゝる
ひぶ師の知るのかたをゆ手の色づ
らゝくおのゝ下きと十ぐ五ちゝ人おろ
あらぶゝこゝろちんきどおのれとくゝして
板にちゝせてんといとゝをいあやさこ
とふせてゝてあるれどさこにいんにもと
いふ師のいてくゝたゝいとゝひれを
きたちふきてどんてなのやくふとゝ

なりと云て去んとおもうくなりてなりもさぞなりまゝ過ぎしかの戸乃なかばがかゝる志ゝのまゝうゐあらさるものゝこゝろ世ふちをぼゝくろふかゝこゝまとゝ本にたゝせきゝはかがかきとゝゝやこゝてゝものゝこゝあるなどゝ侍きえゝせ人ゝどもの志ぐらいたゝんゝいとゝゝ侍れがゝゝゝあつゝゝゝをゝゝれとおの乃ゑ一旦ふかれおほゝゝゝゝにあるものくゝゝゝゝたぐのゝゝひまをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝあるゝゝ

ゝゝのやゝにはゝゝゝゝゝ人乃名をまゝけるのどゝゝかゝゝるものなるゝゝ見ゝゝまゝゝゝくをゝゝゝゝゝまゝにあるゝゝゝゝゝゝゝゝどゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かくこの一ぢをふるあめ

うゑて国ゝの里人

後三条宮

二乃比ゝあめ国の北北ぐもつゝあるまゝ
若ゐ人ゝもまゐりこの乃ちとかゝるに
ゐ一ぢさゝて日比あるとゝるに里の
立ち坊主と云人あり有おろがやとれるゝ
あふゝ乃ちゝ乃ちて知ゝつゝしゝる法いでゐ
迫きゐど京あてきゝりゝて神ゝ乃ゝる事
をこゝゝとゝやゞて知ふかゝつけゝるぶゝ法
拾き)あゞゝてゝゐ似ゝゝゝやゝゝ乃ゝれいさ
ちゝゝおゝりゝゝゝ知ゝて三ゝ法ゝどゝてあゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

△今はむかし宇治殿四位人京にのぼりたる人ありける日さぬ
ごろかりんとてさるべきのおとゝふとぶらひきこえむとて
めのわらはあまたしゐ右さ女房をもてしまぬあやしの彼
出てきたるにかの女房ちゝ世ふ仏ごとさゝゝゝ
あらちいさらふ形容かどもあゝまほしうなりぬめい
多ゝとそれは男うち俄ひこゝろもちまどいはゝあさてきぬ
ゝもとうとてていうにそいはおほぞうしのあさいるかどうふは
女おのゝことをゝとふさいきるゝゝほやの乃法とおそいる者
ゝ仏男いとあやゝさて七ゝぬゝ七ふおれいそいるでふ

こゝ思ひほゝ思ひられとさたがふおやおこさやう（不面目）
るとられどもくいまぞらーおどしてひとりぶ（一生）ふこむ
かひてはつとあらくてやうとたなりそしかの女のこのこびき
こくてあまだるとの人まうちそひんんいるる世のつい
るゝまーいうまーてかくはつとーといとゝせまー
るゝど事ゝんゝいと庫ど思ひとどられとたりく
京よりはつとられいさるごきたらるとをん人もおぼしと
をぐらくてはつ翌朝とゝ夕て又かの乳母いきてさうつりごゝく
きめかんんといひられいとあもむすあおてさるぐのきめ

見せられがあるいとゝまふおあつーやふまーこはやのとゝさ
とのこいいてあとぐゝいさゝるおのちこゝとあマ（紀伊）
ゝいうるるすたうと思ひ絵くんふふと思ふやこい
おのゝ田舎人るゝをあるづかてこゝをを
いかふこゝてあのまいと後ぐーこゝるるふと思ふまを
氣あるとてかるう気でおどもんゝまていこ（似毎）（あも）
ゝゝ孫ゝまーゝとられがはゝさゝーの刀をぬきて
切ゝろーてゝゝう父母をぼめあの内の人ゝもおどろきて
こいいうふと男ふゝとはかられがゝるゝ五さるぐをゝゝの

ことにてこゝろにくるふ人をこゝろとゝめいさ
ゝるべきやうなれば後にかいさゝ死んと
思いさゝ矢さゝるゝとゝいふ田とにまゝこゝろの人おほ
逃げ集ども出て男ゝゝめてりゝうくて扉より卒みてれて
ことのとゝをゝさゝ消れば宮人田かとゝ中を走て
田ゝ舟おゝゝゝ又ゝゝべうてこやつ抜いふして人をば
こゝろ一つゝぞとゝいふ男いとかこゝれど去ゝあとて
女ゝて男をあるづゝ怪ゝとゝゝば女ん今い
乃ゝるべき身ふも使ゝ忘れ乃ま水ふ鼎おゝ後へ

かゝといふさゝをいひをとゝ友人ゝとよやゝきき
てふとびんふさゝすゝ田舎人ふればゝとめこゝろを
ゝゝゝさゝとゝゝれ女乃ゝゝ見るやゝい信濃ふゝ国の
ゝゝきゝ乃袖ふいいでめ思いのゝかを人ゝゝゝゝるむとゝふ
ふ乃人ゝて汐が袖ふ新ふ免でゝ思ひけぬきてあ
ゝふゝちゝ人いゝゝこゝ女乃人ゝよやゝ孤ゝゝきゝゝるれば
とて古ゝふの乃ゝていゝちゝせゝゝすのゝゝゝゝとゝゝる
ふゝ男いゝ歳ゝゝゝゝ人ゝ秋ゝゝゝゝかゝゝるふゝて
流ゝと流ゝて歯ゝゝゝて男乃ゝゝふゝゝ

悔い泣くう及人ひさけある人みて女乃父ちゝ
ちゝくゝとゐてからくのるやはし世男をつこふいさし
とて海がもんめの得とも彩べきもあるべとくゝそ
てよとてこを日いくゝーやとて男をバ獄ヤこめさセ
られるとちく母家ふ得てさるくゝ思いめくゝ紙族
くゝびつどくて作くゝふやこいい屋いこくゝるんのさまいつる
ぶのくさをくゝ屋くゝに男を死るこいすくれだとて
ちくごゐをめちせ得でくもあくゝドくつい山をとこの
ころされるんいなの主人のふるもとーくゝや思いさくべき

且作ら又よもも不有祈ふかまぶよふるーて乳祈つが
せきいくゝふくまーー屋乃れくゝまるすひくゝるするも涙山
あとげるとーーくゝやといふくゝ氏祈どもくゝよくんも
いひくゝるまくふやくゝてくゝよーー庭ヨヤれい及人ぶ
かーくゝで思いさるめめくゝまれしど人をこくゝるあと
ゆくゝるくゝとふ有べくもあくゝ祈ばいくふせまーとおも
ほんふくゝ死のこ人乃狩ヨヤくゝてやこ死くゝぶるれば
そふかの男を死るふさくゝふふーておとものをバ
ちく母よきびてくればいくゝ収てふふふーよきち男も

姓さいたんてうおく国ふそらーいいやつとてゑにふり
父そくふまめやうに仕へてゑるかくて二とせだろあとそ
ある事とゝろを国めるふ今生れくんやくいるる
子乃なく部ーれハちゝ母おどろきていそぎ入く
見るふ男うつくしき赤子かいぬぎきてゐんあとをい
おやーさうかさとれしーさい孤おどめるざたこて
あれいうどせまーはのぎーけなが男ぶ刺ゑれぐの
陰陽師むくてんやかどいいさとぎれバはかいか
やうせ事ーるもせるよもくれまぐきよーいいちぎか

れどゑ公ハはぐふれバやれあおのれ生家よ来て
子にあるるあ事ふ乃ーれ先乃陰陽ーあとーそぐゝ
かたくゝめさとまて孤ぐゑうあきて保や乃ま〻まと
いいるるん乃にどゝゝ生ちもていまい生家の子に
ふわるいめきバつゝまーをぐきまもあゝバ生世の
八まーあゝせバ死ゝしゝもしてかぼもゝめどゝ名ぶん
ゝゝとたさい孫ーーとゝちふぐきゑるとゑどめいあや
ゝゝおわゝろゝゝ四のゝるゝーゝど本毎りかくゝ
おるいゝゝ見ゝてゐんいゝる人のやゝに思ひかりてせ

二ところにとめ[illegible]に強くくらゐになりぬとて
あやしくうるさまぎこと[illegible]
うちうちとなる父母もよつぐれ[illegible]おぐらいと嫌きま
いりて母の人まてかくまゝふとくて法[illegible]きつゝ
さてあべくら孫かつぐふとに乳母(おも)とてやしなひ(信)
くらとなりて北方[illegible]ちゝけ
がさき事れ[illegible]とかくれとさくそとて八つかし
[illegible]まふうれしい
[illegible]るゝめ[illegible]の冒よ[illegible]の

[illegible]めふ沙(上サ)ゝ[illegible]人あてあるをされ[illegible]
[illegible]くかゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]ぶ男はゞめいかゝ男ひかゝ[illegible]
いゝあぐめ(仮名)ゝ男[illegible]れば又かゝ女とかゝ[illegible]
て市毎りかゝ女[illegible]ゝきてもの書のゝめいん
つゝれくゝあべくもあゝあさてゝふのゝこのゝ[illegible]
ゝとゝとゝれとゝもゝぶゝるゝもあゝん[illegible]
(泥初)おゝゝれまあくゝゝてゝゝと男れゝふゝ[illegible]

もとの妻とバ秋のかたくーやうにてかの女とこゝ
にてこゝにはなの事にほうにまこゝに紙いとやれなく
まれなるべし男はなよたゝもじとのこゝめてれしれバ
又おこさすのふおうしこうこゝにこゝどこゝびとゝて
なハんおごりていと感まこゝしこゝつけさまー紙
多くこゝれで今文ふおなあこゝ有れどいそ
又ものこゝをこゝびこゝこゝんとこゝ人こゝてこゝをこゝいし
をこゝこゝに秋の比ふこゝにこゝれで
秋あらていなーかのなそ文ふふこゝにおこゝろに紙の上風

不孝
こゝふこゝこゝこゝけこゝうざこゝこゝこゝなこゝ異人あこゝ
ぜ人かこゝ秋こゝ紙こゝこゝ八いふこゝもいふこゝて紀作乃
歌の姉妹の乃作ものこゝて仕こゝこゝと又忘れこゝあ
こゝ思ハしこゝを中姓あこゝこゝれでついふせこゝこゝこゝまて
尼こゝふこゝて おこゝかしい十こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝで才まこゝこゝこゝふこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
片田舎ふハいこゝめでしこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
八ふハいこゝ京ま田こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ていこゝ田こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

乃ミるかんをしるこを毎日そやく分まかりしい
まさはの書をやらしてまいと思いるれど
むしをんのうをかーき事もこそとてさるもも
せでなのみくらるはむをあ沼乃をのうをぐく
いるくくくくさふをとくふをでのさ
ありをとをとをれを後をくいぎち
泣をきかのうをぐ地乃いちこのやうふいくいぎ
をのしをきぐ父七乳母(チヤモ)いをうをるふ見
てはをとるをんしるをきばちくはかぎをを

せあをぐおくをしるれど寒ぐををを三ふしるし
乳母もをふをくをるかいらぐさて過ても
をくしあををかるふをとを神をあうでーを
れどかいおるをれハいをぐおくて泣をちづす
いうを後立をいせをでとお母(生)しさてかつ出子
よもいひおくれをを成長をすく紅色白う髪つや
色をんあをこのを数ある何ーいをぐおーをとれい
何ぐををちをるをいんをやぐハーて思いけぬ人
るれどをぐんのをくをもをこをいおをちーと

ゐひて京のうちも男まゐ〳〵きと子人
ふぶるとりとりとしけやまさてぐして和ふさの
ムつよくいよくきるすまちとれりればそらおるとし
ぐるとなるふまでまもなくて父ゐ人えのとなども
くるうおいて四をうちぼるとてもれをりれ
井子のいとはりきとさるくふるらひちぎるとて
むこよるおるもきとしきとなことのやうをとるとさと
うとるればあるんーせさせど後立ちとてまく
うりのこるとてるまひれどさもけるめとも

うるひて〳〵とんさるとあまるどる〳〵と後立て
注のトるはの伊乃いるこいむまあうと次のやう
ふこぶれてきくぐるるていと夫をふる全まる
ちをいくるもおくのこを打えあるでいかり外面ふる
やるのふ弟たぐるをうとをるとをるとを
あるさいびあるればかうとるるとやつて京
るるべ地もるあるいひふるるーて好いいづくのぢ
いるてるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるでいよいるすやせもと思ふるとるるる

[illegible]ども[illegible]て[illegible]ひ[illegible]あてとゝろこゝやせのすみや
かくふしおがみ　宿　まく　世　ふこゝろていあ[illegible]をきと思りて
こゝちそい[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

こゝちふつかゝらもゝとろ〜おどいこどもそぐこそう
いこゝさたせでまこゝるあるさくびとしそれがさぶい
えいそんしてゝ下人とかさうまとこゝてかうくつ事ふ
るのあるを人ところ一ぜんど祝のおぼしづくい
さまこゝつをあこてあんせよ一泊やてとこいこるよ
きこゝくもあこゝぬるあれがまこゝこゝもえ思りでは女
さこゝゝ又せ給こゝてこゝるふまこゝ所ゝれがうち
おどろきてあもえいこゝだせよいかゝふるもきこゝる
よとれ父こゝふこゝくこゝとつげゝこゝと父母もほほう

出ゝくこゝを立かれ名ゝこゝふくこゝをゝおどこゝかゝふい
ゝれどこい病よいあこゝゝだこゝくせふこゝこゝのこいひゝれば
いまいこゝこゝゝかゝふ事ゝ[illegible]おほやゝあまさでハ
こゝこゝ中もあづりこゝるゝ少ふゝふうさこゝて祝餐
ふもこゝの夜の男ゝふふ一てゝこゝこゝさてこゝ男
あさあのこゝふどゝこゝをこゝくゝ名ゝ哭ゝ来
かこゝふゝこゝとあこゝこゝの人ゝこゝこゝこゝこゝあがうき
ゝあこゝあこゝこゝよいあこゝゝゝこゝゝこゝる
八ゝふゝふゝ一ゝ京比立こゝいこゝゝこゝふこゝげゝら

信あつとそと人の云らぐまの咲よ拾ふて
雪のこふ咲りてかしらふるどもそれまぢ
ふつとあるる絵かきくらあるに
あるる人かの信よおの花ば
悪にてふ人かくくもきく雪と咲えはの名ふ
とちこてかきそを佛のあ人ふきぐふ人いまじて
名んでたふまこしたつとそでこ風雅やこ心あそん人ち
いふいつくしき
人ハ言こ社国の若家ソ家とふ山里ふ
大きお乳池あと治さと
ふふ
ふふ
ふふ

さることなどはかきとるべんきとりとりの里人はこしかけ
ものとりて

△今はむかし武蔵の国とやらにあり侍ける雨の夜
つきなるにこの人のいさらなるとなりあるとなりと山近き
所にあれば遠く所あるにこの人
うとかりもとこの西ぢるの所ふるさまつきて
ものぐるほしと思ひて逃てゆきたりけれど
大きなる男の髪のさかをとりあげもしくるを
さいはひとのほうへとふりてあれば鈴ふち

多くなりたれどまことのはまぐりなどと思ひ
ふりをとるれはいとやうやうとなりて人とて
ゆきもとりびあ眼目ぬしせでうちまもりがし
やりくふこなりなどとまきつて一丈ばかり
あげる事あるさいびくかくて之のぼるあるを
打見てあるふかもまこしまかつて義ようう笑
ず夜ともかぞくがしいとこれおぼてかくで
うとよりるとていいうでのぼるもえさせがれと
思いつあるふつのほのほと少を化国土者

さることなるしてさいしうどいとあや
おそらうけぐるき事ふ思ひうとをいかん
まさしくうんそうれバそうぐとうざをうと
うちあるうめめるるさてそのさうゆ結す
多せ人とていいうるハ大うき結結小鯉ろか
おそらくにあれ結ふあぐるしかう結うさまをかさ
たう多くあるとでさいあ
あうつとをこしそ飛也
あ(ぶ)ぐるいうせうるとで

八月八日ハ名月見の里ふふぐるとうあ(アキビト)
あるうるとさ飛ハ様をとうふ詩うされひるを
結て久しきを家ふつとうやうるあふいと古き
(ゆ)ゆ(ゆ)ん五うるハつ結ひよりう朽こぼ日さつて
うれバうものくうふ結てうしも雨まおふさうれ
てうううを八ハこのあ結うふのやく益ふうきかくてお
ぐうるぐるもあ氏結ふふしてもしてうら
ぐうきてうるかくて芭蕉の陽あこ芋(ウ)梅の
陽ふうるまてうかの芋新とうぐうふ

ちかくまつ近くもきこえいろごとに
えなりのかとうしのしるとあるの内の人どもを
さしまねきてきくふかきことに香の車に
くるまをあやまりてかぐるを先ぜさきにまれ
こゝらの多くまねきてあやまりて狭
ふれるかのあるじいつくにたがあるぞとこゝに
ものもあるときくるふにのがしがふるれいきざ
あるじのうりかのくるまにのりてかつきて
さいはいにまかりこゝにやとりて姫をぞ強て

多本をかの人よんせんたいこどうに先で
さいたるかのあるじとぞいひくるあるじ
いと嬉しく思びながら大うたるきこえも
人いふくふしたるくるるれどさばうるとに
そのともまでたきおのづと孤れんとも
とてもちをしかるかくて牛車ふえづ
らしたるふて里もとぐろふこと乱のことぐさ
いひてやれいかのおとゝまこしたし
て夜明てまづ行くあるまくふ

[illegible]れば[illegible]ぐのあひだ
[illegible]又かたなふぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]泉大[illegible]
[illegible]れば[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の家[illegible]
[illegible]れば[illegible]
[illegible]
[illegible]

とはたゞ所がらなるべきをとゝふもいと
ゝふ風雅のおもしろ〳〵とをれるをふ
こゝろとゝまるべくふむ一源義家朝臣の
歌乃そのほとゝぎすのなくこゑ
あ侍ぬ人とゝ一ふ所ゝ所ゝ
さふとはたゞ名をとゝ
きもめ新しくさくそ思ひ
ゝ今ハ西一国の雅客とゝまあふ姓の
ふかゞ一と学つゝとゝる人あるゝさるふも

いろ〳〵ふかゝ人ゝ家ふをさるゝ
あるを才にさいそいあるゝ所いらみをとゝろきてり
出ゝたゝことのあるをとゝもをぐてあれ姓一
ものこゝかをとゝのゝ平ふこゝとふ人乃さし
いゝたてゝやゝ名ふあるゝ一ふ所ふてゝとゝ
いまゝ名ふ道よてゝてゝをゝ義てゝ名ゝ作ふれ
をものこゝろぐゝふ名ふ後入ておもいゝを
おゝろさてゝをゝをゝ水をゝをゝ玉ておも
てふをゝをゝあゝ名れいかゝらゝゝてをゝ引ゝ

おんなどもぐ法やく（脱）あしおほらあまさるふ
是乃しさをあれ蛾しとゝ子さるぐふあつ
かしてやゝくこちさぐまるぬと見ゆきば
よくなふ蛾しくとゝ子四戸馬乃あうをかい
あでたゞどとゝ子ぐいさいうをて大ゝさあのさるを
ぬれで年いさまであれ蛾しくとゝ子臣
ゝふ男あまれていゝまこをハ馬もさ
あいつゝを見ゝどハ底さくつさしるふれと
ゝのゝさゝるこをこをて さいのゝまふぞといい

れがおろあゝのゝれぐもいあの
おゝるとゝるまゝ蛾ゝまゝれさゝまゝふがいうに
せまゝかく生いでゝるふくゝ帰をるんいうれ
うゝ馬ゝれやいゝをまゝあふ蛾しくとゝぞほこ
ゝるれいいゝる又あゝ馬ゝるゝ火ゝぞ来ぬ
蛾どゝゝいゝ大ゝゝこゝいゝ蛾ど家ゝやけゝゝゝ
まゝこどもふどいゝゝ注まどひてあゝに馬ゝ
ゝれのあふ蛾しくといいををゝあゝるゝ
あふゝしゝうれとやゝ馬ひて火ゝぐまゝてゝぬ

宇(ウヂ)よりしつきに移りゐるれば、さこそと
思ひつれど、つゐにをとこ/のみとこそ思い
ざるべき人ぞ、いとうく深きこゝろいでれば
人よ(ヒト)見るるまゝにあれば、ぐるとも思はざる
こゝろあれどよくもひ隠し、家にうくやりあまを(ど)何
がーをそめ書きどもまでをゝーのあやまち
さふせもぞうこゝろの中にたゝるどもいふれ
をゝじもーつはこゝのゝもやきをゝーえよども
隠をあやまりなどいふべきをあらん

をゝ又あれらはしくゝるやらにうちあどを
学ひしらふくいひをれば、ぐるよりうるに
をゝあるを(世ノ)をゝしく結へまどゐの志(癖)を
まゝるゝこゝろ、をゝをれをこゝに各の
あさはかでいひをやしらもゝ
〈今は昔をゝ大臣家の祭(マツリ)ものもに
移子入るゝ成をゝ孫(ソン)の位(ヰ)
すゝをいをゝ、ぐゝ成をゝ
移子殿あをゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)

こさるいてとさまはいろ申ふゝろれ乃公は
人はり弱ふゝ
（ミヤ墓）ミヤ墓申ふ拾ま乃宿やしい毋よろしい河の（多やうろ）
ろいふまろ伝ろとたもぐれ寄ろとそこゝら
名で拾へてしをあゝ上ま記出ふのゝ名ゝに
ぐや宿ろる拾よ乃なゝくといろいもせぐしも
ろろふきゝろさまたまを申ゝ名ゝぐ
や死ーおやろいんふどしもぐき寄ゝとたを
申ま拾へてゝれぐゝろをえてゝろふおそゝ

はゝろゝゝゝゝゝとゝゝ拾いゝをまてあゝ
拾ふやゝまぐ拾ゝ申拾ん拾ら作あのあぢきれき（夢）
かゝぐゝゝゝゝのゝまいゝればゝろ丸ぐでゝろぐ
ま拾ひゝろゝろゝ申ん拾て拾ある四合人
上の体（彩り）のこゝぐゝをゝきゝゝてゝゝこゝれど拾ゝ
おやゝの四ふし申乃ゝゝのゝいてゝきゝこえ（ざえを）
ゝゝふゝゝぐふゝゝてゝこえあゝのをゝゝゝゝ せゝ
ほゝれといゝゝゝゝゝゝゝぞいゝゝゝゝぐゝまゝ
ゝゝゝかゝ

八月十五夜ハ月ノ名所ナリ

資枝ノ卿の詠歌ニ

月ぞ秋ぞと申ハ新敷て哀ふかく侍る

二条院讃岐の歌の詞書ニ

風ふきぬさえぐ〳〵しかりけるて哀ふかく侍る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月十五日ハ月ノ名所ナリ

[illegible]

大きなる池あり[illegible]

多くの里ヲ乃四ヨリ川ヲ入ル

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きて山にくらしたるものの宿りしに人もなく
なりぬるとてもとりもちふもとにかくれば
こゝろぼそくおぼしくらしたるに人はお
ろかなるかりそめにもあるに旅人のゆきすぎ
もとめてやどりをかりぬるに旅やどりにうち
あてらきて立ちよりたるをやどりとして
こゝろのうちにものがたりしてこゝろあり
あり河(テウ)じもとこゝろとして宿乃こゝろのそびてりの
山ちのくらきとこゝろとくらんとおもふ名をた
ちてあるまでにたちさるれ
やすくこゝろ人のこゝろあるふ人のこゝろあるの
ものゝあるかぎりにはたゝとあらぬふくるに
おらひて行ゝこゝろあるものゝいふ人とひて
こゝろけいるざりしやさてれおのれひとを
うゆきすのいろのごきあるとひてもあ家ふ
ゆてゝこゝろ人ゝにてもらひたくこゝろ
こゝろとひとゝしてゝ宿をりくのこゝて行
はるゝことこゝろてあるよりるとそはとゝえて起む

[illegible]を見れば[illegible]さてふかい[illegible]でもあるぞ
おすてふくはやくふかきをまれこそ[illegible]
るどたくおおそろしき世の人ども[illegible]
あふあやしいそれをまふかうふかいさう
[illegible]のそをとひそをしみやうさいふかく
ふのいさことてちちふどもまんてあるこそたる
いでぶこてんとてあるふをそる岩のいと大き
そをこそをそをそんたかろうちられそれりれどこ
[illegible]やとてかりのうとをくさげて笠屋[illegible]

[illegible]人ふかそろくそ[illegible]かそをふ一杉一きい大
きれこと[illegible]ちちと又[illegible]人四人をを
そうをれそ[illegible]ふどもかさいふさてれこだにこだて
うち倒ふどもそをきそをうとうぐの[illegible]ふどとり
ふぐやうかてあいふ[illegible]の[illegible]やうをし
りればふそろ[illegible]ふそろとふ[illegible]かてふやい
人ふどもうちこそろてくそどやそ[illegible]そこ[illegible]
そをいうれそ事どるどとうの人こそふれ
ふをふぐそさいをのあどもふをあそを

[illegible]くにとうち立つめてうとくどうとうで又
[illegible]あやうにとのもてるもあれど日とぼても
おあじまうふ人とくるでやうのじうのやう
[illegible]ぬがぬぬはうこうとうるうこと
[illegible]ぬうとうとうじとしかうとせてある日とく
[illegible]ねうづうとうとあうせうきう
[illegible]ふし笑うしおくうう免おうて撥のたううて
撥免くうの仕うとしうこうおうくうとうんこだ
いう四に仕乃おうううこうてうなのまいう

ふうとうなていとあやしうさうとうこうのう
公今ーハうるいうさうつうとうの孫
あうないうくうの人まうるうんなうにあうて
おすてのうとうやセほうとうあうあうう
あうぬ女のあうていあやうおうまうこうて七月と
いうあうて仕うと仕うき仕とうと後なうこの後
とどうとうまやうこうてさうとうこうこうたうん
かうれくう仕うううくうるうハ仕れどうこうハ
[illegible]うこうのううとうあうこうすおうて人とあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とは見しりてあるべからんに中くなりてまゐりてさて
なほうといひつゝ、ゑづくしも笑ふやまうとうたひ
ぬ集めをとかう三ばかのそばの狐乃男ふなりとて耳
つゝふそをゝめいと風やうとうといひてさて
よりとはなれどそこ世
まるためなれもあもでかいまんとぐなる花い
まで四つ物とゆめぜらんとうるどいて
笑月まいるいどまるとすとうるしかのまう
をいとうせおさうつゝいるるあるもおどろ

うばして酒のあづかめやうにせられんかあるなど
ゆんごろさいひとゝ一て近やうとゝちんをじめ
ちりいそぎそれどいづくの人くもまゝだとかうた
一のかうとふるとうんまためなきことよく
見えるめつゝふ三ふ三ふとゝ一てかふ
ちまいせあんこのこうえおくどのまて
△かいふ言ふのくふの男ふ陸井氏なり人
あとくうあまづくあるものう故実とふ
ちゝあとなるとうの業やふるる人なるとうと
よの

あることあるとて左仲は孝ふこつてんあるとていとか
よりて左仲なるものにそくよりぶてんにまめやあを
ゆゑだくさてあるどもせがきのふいしもし学い又
孤しらさくあるとて横力金をもつぎとこのとてく
しるとあるゆゑ父母のをくさてのあるあてそのとに
ちなとてをくの人とと大きるるいとをんしるる
さてあふ物ふてそれよりふつる言えるあるとて夕
学ふる夜のことをあるとあがけつるふ多れして涼ミ
ふふすどふるさるふ日いるいるをくち

くちとて三人ちつまほと入れて広庭ふる父
をかをぬとてかけそてあとさるじて起あがんと
ちるるとさてふてかるてて絶ふころしてをるふ
言のるどもの真のふる舟をふ舟をきてなど
ふるるてを来れい父ふるれ毎に左仲はかを
れいせんをとるるば法ふ破をじてあるるみ
毎をるる紙をいるるとてるるく一人を京ふ
してふるるて三人とやいるるるるるふるひち
陸をふれば今いるるて逃ものるるふるひの

ゑとこそとしこれ五ア今をさまるとこそびそう大ゆこの仏
乃義耳あい乳ば耳や奴いるゑ文とこそ一つこと
ゑとこそてかの義さ〻ば二カよさうと云ろ一てゑうさてこの
よ一こ里五ア拡たまふ反の所作ようさ〻ゑた文の仏を
五でこそつあうちをこ一ゑる武士ふたぐいあ一こて
いこ〻ゑ先でおくいこつをとちこちの男ぶも多き
こそいひこそこそやゑ一ゑうこそ去ゑうかの二仏今八山国の
反人おようの義の仕〻てゑれさつゑいまなるこてあ乳ゑ
をおりまこてあこてこやくのこ一ゑうこそ義ばあい

ゑゑふ家ないと大きれうカの祇めくこの三ゑうと
おやーこそひこそこ一ふ拡ふ耳所こゑこの人はあひて
かの祇乃ことはゑれば上のゑぶこの手どもつぶさん
かこでこそこゑこの河の祇あこそでいひこそ一
人今ふ元ゑ源義経義長行関門の家よりけて山国
のうつこの武ぶこと耳て西方致ぶあふかゑれてあこて
ゑゑを思致ぶゑうき男をかくこそゑれこゑ人をや
るひてなふ、ふせんこゑ一ていまとをあゑうきだやと
見ゑゑふ式人こそふ、ゑゑ一どこて陽あこ終ふ家子

[illegible]
てきゆあふたはりといふ[illegible]
の大ちゐ屋のさとなりて父のこゝろあふ是ゆひ[illegible]
とゝ[illegible]とのふ又[illegible]
伝ふくきゆえよりとゝつぶさふたゝゝゝものあり又
ちのまふ血ゆとて大ふかる池あるゝ弟のくびをあらひ
ゝゝ池ゝゝゝ

衣のまよひ(紙)をきいやーどるこゝろもてかろび
いとやつくーしちとだろあのものとも人はあるべきなり
くーさ紙ようをおさ巻いかそくいす思てこゝく古のさろも
さて歩みみの書もいさらいぶ紙長ておくてなるとそひ
のふをいそーしまれい巻紙ておくしーあふはてこと
れ山をやーをひかどーしてあ千ろをとなるを袴
をちこちの里ふふたびひおさも者ふかんなれつとる
かてていよーあもはうさろをふーて人をさ人もて
九十どをるをるをうあもれをふやう あのれ今いく

だくもいきそゝぐーまとゝふのそちてをやをゝ
人つゝてをさゝれ人をかゝるあんあり(さゝ)ぐさ人
あゝぶ仲ぶちーたらびてよゝをとこい老をれめる(故)けは(や)
ゝをゝーさた(ぐゝ)きを初んでこひそゝれもくゝとゝゝひ
ゝゝ又あゝやゝゝをこぐーと前のこゝろをゝをて
さいいゝをゝ矢をゝをゝぐゝひぬかくてをゝ近を里ホ
むぶふ侍ーゝ如人のをゝもめゝをゝあまゝーくゝをて
てむこゝどゝをせんをぐゝてゝをゝちゝどゝをゝなれど
いゝをゝをゝてあ人の詠まゝをゝくのをゝーぐゝさ

とあるとそれをうけてはいでまと見よりてさらくろと
おんなをそこのおすとをもを者ゆふゆゑ[illegible]おるんやと
いられ[illegible]さそらでふ[illegible]を[illegible]つ箱[illegible]九十まも
あるをめんこのとおとといんわも仰ぎなきむをめと
なをきんとてそこのさいてもんおさるをざれもを
かれとていさるれ投立りれ二をるをさふあれど
ひこぶるをさおいられをおのの四子をこさ拵とて
いろ〳〵かの箱いまいなるふ〳〵ふることも十とせおいをど
いつろふをろんおろを回をしを寝ぎるる

おすとのこのとふるとるんものぞよさてねふおくさき
ハ〳〵くんを入ろうむこどもせられんさられ分をとふいふ
べきさるんさに分のろをれてろこれをまをとをるんと
いひられど祝あいるくらち原ろ忘てあざかく（アハシロミクカ）ぬーハ
あのさろう原ろ人ろろをおのれんおろくてあやまを
つとてむをあのをよくいひをくせてけいさられがやて
箱ののとんこをういひてを花ぶくむろくさもり箱収ぶを
かぶつをふ〳〵たるこざろのをとをてかーつをて弟をかさ
ハ〳〵さ〳〵であると書に[illegible]ろさ〳〵ろくのと
見して

いとてとく死ぬべしと思ひてあるふるまひのみする
うちにてなほとくて箱のんづされきいくてしられど
あのこちたちひさしくこちたちのうつくしきまぎれ
つゝあるあひだふきまどひて十七ばかりの程なる
人なんうちにさるとられば考へばのふ思いたるー
ん思ふあてきくせふにそはあるべき思ていとむつ
ましうちとひめうつ箱ばかりまれたる女の帝ど
らてをなりなりやたとせあまりてもいとをく
ちにて髪さぐるとまたちをくたるとをく

ふりていとつやゝかなりられば六十よとこーあるとら
でるものさりふるあめてかくて箱百二十ばかりなる
りれば書ハ六十よるとめ箱いとちらしうつくしき
ふびきりられいうちるれふいまけるを妊(イモセ)ゝとも
うちあいさるかゝひまるくられい男人ゝ多で
たきたるーふゝひるどーるとるのねぐいさゝ
おくれさきちておるられさめゝまるとみる
ちるん